

部隊名 第百師團獨立歩兵第百六十六大隊

通稱號 據第一〇六二四部隊

記載者官氏名 陸軍大尉 大串定夫

部隊ノ行動概要ニ關スル調書

昭和二十一年八月十日

比 島 課

記載要領

- 一 本調査ハ留守宅ノ安否照會及所屬不明者ノ究明ニ關スル参考資料ト致シ
- 二 マスノチ成ル可ク明瞭詳細ニ記載願ヒ度イ
- 三 人員ニ關スル項ハ數字ヲ以テ記載シ尙不詳ナル場合ハ概數ヲ記載ノコト
- 四 本調査ノミチハ不備不充分ト思考セラルル場合ハ適宜補足ノ上記載願ヒ度イ

一 指揮隸屬關係

自昭和十九年七月至昭和二十年五月間第三十師團（約）ノ指揮下ニ在リ
昭和二十年五月末第百師團（據）ノ隸下ニ復歸セシメラル

自昭和十九年十二月至昭和二十年五月間第三十師團衛生隊一ケ中隊ヲ指
揮シアリ

二 編成（總人員ヲ明記ノコト

本部、第一中隊、第二中隊、第三中隊、第四中隊、銃砲隊、作業隊、人
員ノ確實ナルヲ記憶セズ尙現在其ノ資料ヲ有セザルタメ不明ナリ

三 海没ノ有無

海没ナシ

(イ) 船 名

(ロ) 月 日

(ハ) 場 所

(ニ) 死没人員

(ホ) 生死不明

四 損害（損耗率ヲモ併記ノコト）

(イ) 戦 死 約八百名

(ロ) 生死不明 約五十名

(ハ) 其ノ他

(ニ) 備 考 部隊全部ノ整理ヲ完了シアラザル爲右數字ハ確實ナラス

五 復員情況

(イ) 既復員者數 約百五十名

(ロ) 殘留者數 約三十名

(一) 其ノ他

(二) 備考

殘留者ハ右數字ヨリモ稍々少イモノト思考スルモ不明ナリ

六 行動ノ概要(米軍上陸「昭和二十年四月十八日」直前ノ部隊ノ配備ヨリ記ス)

(一) 部隊本部ハ「コタバト」州「サルナヤン」ニ位置シ約、據、兩兵團ノ食糧(米穀)收集ノタメ各隊ヲ指導スルト共ニ「サルナヤン」北方ノ陣地構築ニ任ジアリ四月十八日敵上陸ニ當リ「サルナヤン」ヲ撤退、北方陣地ニ依リ米軍ノ「ダバオ」進出ヲ拒止ス、茲ニ於テ米軍第二十四師ト交戦、「マリダボツグ」方面ニ轉進セントセシモ食糧欠亡ノタメ前記陣地ニヨリ持久戦ヲ持續ス、六月據兵團命令ニヨリ「ダバオ」ニ轉進スベク左記要圖ノ如ク行動「キタバワン」附近ニテ原住民「バコボ」族ノ「ニュース」提供ニヨリ終戦ヲ知り「ダバオ」收容所ニ赴ク時、昭和二十年十月五日ナリ

(二) 第一中隊ハ「ラナオ」州「マラパン」ニ位置シアリタルモ米比軍ノ連續攻撃ニ遭ヒ敵上陸三日以前四月十五日ニ「マラパン」ヲ放棄、部隊本部位置ニ轉進セリ、爾後本部ノ行動ト同ジ

(三) 第二中隊ハ「バラン」ニ在リテ水際戦闘ヲ實施スベク水際陣地ヲ構築シアリタルモ敵上陸ニ當リ戦闘ヲ持續シツテ部隊本部位置ニ後退セリ爾後ハ本部ト共ニ行動ス

(四) 第三中隊ハ部隊ヨリ離レテ約兵團直轄中隊トシテ主トシテ「カバカン」附近ノ米穀收集ニ任ジアリタルモ敵「コタバト」上陸ニ伴ヒ原所屬復歸ヲ命ゼラレ直チニ部隊本部位置ニ轉進シ來レルモ連絡ナラズ獨斷據兵團司令部ト連絡ノタメ「ダバオ」ニ轉進爾後兵團ト共ニ「ダバオ」

附近戦闘ニ参加ス

(五) 第四中隊ハ「ドクワン」附近ニ在リテ「ドクワン」地區ノ米穀收集ニ任ジアリタルモ敵上陸ト同時ニ部隊本部位置ニ轉進ス、爾後ノ行動ハ本部ト同ジ

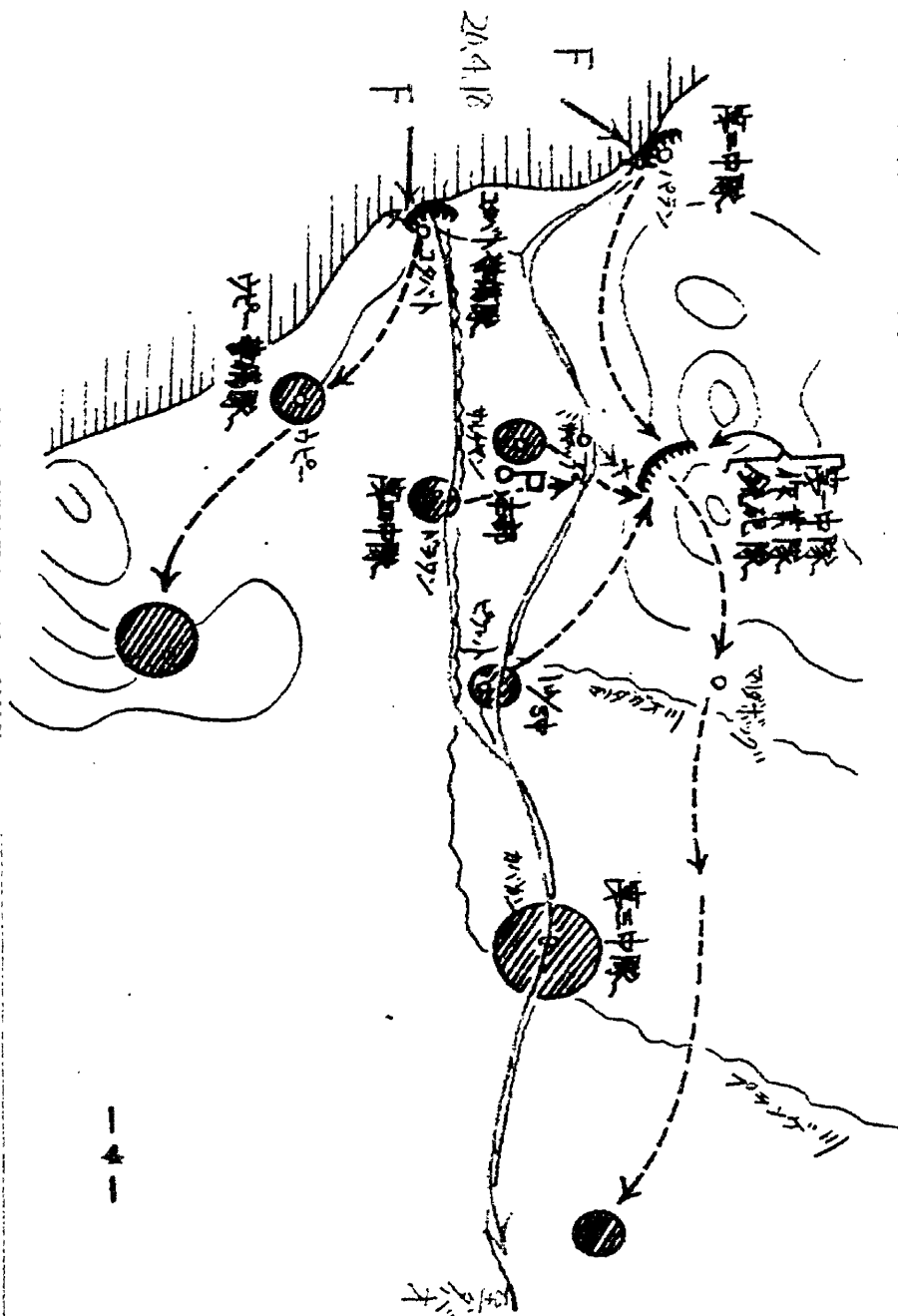
(六) 統砲隊ハ「サルナヤン」北方障地ニ障地構築ニ任ジアリタルモ爾後ハ部隊本部ト共ニ行動ス

(七) 作業隊右ニ同ジ

(八) 「コタバト」警備隊(第三中隊ノ一ケ小隊ト第一中隊ノ一ケ小隊)「コタバト」附近ノ障地構築ニ任ジアリタルモ敵上陸ト共ニ「ウビー」方面ニ後退持久戦ヲ實施ス

(九) 「ウビー」警備隊(第二中隊ノ一ケ小隊「コタバト」憲兵隊)「ウビー」附近ノ食糧收集ニ任ジアリタルモ敵上陸ニ伴ヒ「コタバト」警備隊ト合同持久戦ニ轉移ス

要圖(自二十一年四月十八日至二十一年十月一日)



部隊行動ニ關スル報告書

昭和二十〇年六月二十六日

部隊名 第百師團―獨立歩兵第六十六大隊

整備責任者 (職官氏名) 副官 陸軍大尉 大車定夫

(連絡先)

通稱 號 據一〇六二四

―指揮隷屬關係 第三〇師團(豹)指揮下タリシモ昭和十九年六月一日零時ヲ以テ第百師團(據)ノ隷下ニ復歸セシメラル

編成

- 大隊本部、第一中隊、第二中隊、第三中隊、第四中隊、銃砲隊、作業隊
- 長 大隊長 中佐 内匠 豊
- 第一中隊長 中尉 小川 一夫
- 第二中隊長 中尉 淺井 弘
- 第三中隊長 中尉 小林 登志男
- 第四中隊長 中尉 鈴木 弘
- 銃砲隊長 大尉 伊藤 靜夫
- 作業小隊長 中尉 松下 慶三

―行動ノ概要(要圖ニテ圖示説明下サイ)

大隊(豹兵團)ノ指揮下ニ在リテ「ミンダナオ」島「コタバト」州及「ラナオ」州「マラベン」附近ヲ警備シ主トシテ敵ノ來攻ニ備ヘテ戰闘準備ヲ實施スルト共ニ「コタバト」州ノ食糧ヲ確保シ約據兩兵團ノ兵站ヲ擔任シアリタル爲、治安ヲ確保シ食糧ヲ確保スルニハ高度ノ分散ヲ餘儀ナクサレ殆シト大々的作戰準備ヲ實施シ得ザリキ各中隊ノ行動ヲ示サバ概本夫ノ如シ(要圖参照)

(大隊本部)四月十七日敵「コタベト」「バラン」ニ上陸セル爲「サル
ナヤン」ニ位置シ各中隊ヲ指揮シアリタル本部ハ四月十九日既設陣地「ミ
ラヤ」ニ轉進集結中隊ヲ指揮シ敵第二四師ト交戦「マリダガオ」方向ニ
後退ス敵ノ追撃ナキタメ再ビ「ミラヤ」ニ歸還長期持久ヲ計ル
昭和十九年六月一日零時ヲ以テ據兵團ノ兼下ニ復歸セシメラレ「ダバオ」
ニ轉進スベキ命令ヲ受ケ六月二十日「ミラヤ」ヲ出發、未知ノ密林山岳
地帯ヲ突破「ダバオ」ニ轉進セントシタルモノナリ